

は し が き

ローマ字教育の指針

ローマ字文の書き方

(抜粋)

昭和24年2月

文 部 省

1. この冊子は小学校・中学校におけるローマ字教育担当者の参考に資するため、昭和22年2月28日に文部省から発表された「ローマ字教育の指針」と「ローマ字文の書き方」とを印刷に付したものである。
2. 「ローマ字文の書き方」の「I つづり方」の項は一つのつづり方を基として解説されているが、この冊子では「ローマ字文の書き方」の末尾に、標準式(ハボン式)・日本式のつづり方についての補注を添えた、これは、ローマ字の教科書として、それらのつづり方によるものも編修されているからである。また、この冊子では、さきに発表されたものの用例の誤植を訂正した。
3. 「ローマ字教育の指針」・「ローマ字文の書き方」は、現行の各科指導要領などと同様に一つの試案である。

なお、ローマ字のつづり方およびローマ字教育の方法、その他については、目下、ローマ字調査会において研究・審議がすすめられている。

ローマ字文の書き方

I つづり方

1. 直音

a	i	u	e	o					
ア	イ(キ)	ウ	エ(エ)	オ					
ka	ki	ku	ke	ko	ga	gi	gu	ge	go
カ	キ	ク	ケ	コ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
sa	si	su	se	so	za	zi	zu	ze	zo
サ	シ	ス	セ	ソ	ザ	ジ(ヂ)	ズ(ヅ)	ゼ	ゾ
ta	ti	tu	te	to	da			de	do
タ	チ	ツ	テ	ト	ダ			デ	ド
na	ni	nu	ne	no					
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ					
ha	hi	hu	he	ho	ba	bi	bu	be	bo
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ma	mi	mu	me	mo	pa	pi	pu	pe	po
マ	ミ	ム	メ	モ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
ya		yu		yo					
ヤ		ユ		ヨ					
ra	ri	ru	re	ro					
ラ	リ	ル	レ	ロ					
wa									
ワ									

2. よう音(拗音)

kya	kyu	kyo	gya	gyu	gyo
キヤ	キユ	キョ	ギヤ	ギユ	ギョ
sya	syu	syo	zya	zyu	zyo
シヤ	シユ	ショ	ジャ(ヂヤ)	ジュ(ヂユ)	ジョ(ヂョ)
tya	tyu	tyo			
チャ	チュ	チョ			
nya	nyu	nyo			
ニヤ	ニユ	ニョ			
hya	hyu	hyo	bya	byu	byo
ヒヤ	ヒユ	ヒョ	ビヤ	ビユ	ビョ
mya	myu	myo	pya	pyu	pyo
ミヤ	ミユ	ミョ	ピヤ	ピユ	ピョ
rya	ryu	ryo			
リヤ	リュ	リョ			

〔備考 1〕 以上は、現代語で標準的と認められる音を、ローマ字で書きあらわす場合と、かなで書きあらわす場合とを対応して示したものである。

〔備考 2〕 次のようなつづり方も必要に応じて習わせる。

shi (シ), chi (チ), tsu (ツ), fu (フ), ji (ジ,ヂ)
 sha (シヤ), shu (シユ), sho (ショ), cha (チャ), chu (チュ)
 cho (チョ), ja (ジャ,ヂヤ), ju (ジュ,ヂユ), jo (ジョ,ヂョ)
 di (ヂ), du (ヅ), dya (ヂヤ), dyu (ヂユ), dyo (ヂョ)

wo (ヲ, 助詞「を」にかぎる), kwa (クワ), gwa (グワ) [補注参照]

[備考 3] 特殊な音の書きあらわし方については自由とする。

3. いわゆる長母音はその文字の上にやまがた「ハ」をつけてあらわすか、または母音字を重ねてあらわす。ただし「ていねい」「命令」などの「エイ」は ei とする。

obâsan	おばあさん	nêsan	ねえさん
Tôkyô	東京	ryôri	料理
kûki	空気	tyûi	注意
ôkii, ookii	大きい	tiisai	小さい
teinèi	ていねい	meirei	命令

4. はねる音は、すべて n であらわす。

sannin	三人	sinbun	新聞
denpô	電報	kantoku	監督
tenki	天気		

[注意] はねる音をあらわす n の次にすぐに母音字又は y が続く場合には、n のあとに切るしるし「'」を入れる。

gen'in	原因	kin'yôbi	金曜日
--------	----	----------	-----

5. つまる音は、次に来る子音字を重ねてあらわす。

Nippon	日本	gakko	学校
kitte	切手	zassi	雑誌
ossyaru	おっしゃる	syuppatu	出版

tyottô ちよっと

ただし次のような場合にはアポストロフ「'」を使って示す。

“A'” to sakebu. 「あっ」とさけぶ

6. 文の最初の単語や固有名詞やその他必要のある場合には、その語頭に大文字を用いる。

Kyô wa kin'yôbi desu. きょうは金曜日です。

Tôkyô 東京 Huzisan 富士山

[附記 1] 外來語は國語音のつづり方に従って書く。

inki	インキ	naihu	ナイフ
tabako	たばこ	ranpu	ランプ

[附記 2] 外國語(地名・人名を含む)のローマ字つづりは、原則として原語に従って書く。ただし日本語風に呼びならわした地名・人名は外來語なみにあつかう。

II 分ち書きのし方

1. 原則として単語はそれぞれ一続きに書き、他の単語から離して書く。

Suzusii kaze ga soyosoyo huku.

涼しい風がそよそよ吹く。

Kyô wa watakusi no tanzuyôbi desu.

きょうは私の誕生日です。

Mukasi, mukasi, aru tokoro ni ozii.

san to obāsan ga arimasita.

むかし、むかし、あるところにおじいさんとおばあさんがあ
りました。

〔注意〕 一語で二行にまたがる場合に、一つの音節の中途やはねる
音の前では切らない、また、つまる音はかならず重なった字の間
で切る。なお、切る場合は意味のとりやすいようにあつかう。

12. 「'」は、はねる音 *n* とその次に来る母音字または *y* とを切り離す
必要のある場合に用いる。(I. 4. 注意参照)

13. 「^」は、母音字の上に付けて、その母音が長音であることを示す
場合に用いる。(I. 3. 参照)

補 注

標準式（ヘボン式）のつづり方、その他

1. 直 音

a	i	u	e	o					
ア	イ(キ)	ウ	エ(ヱ)	オ(ヲ)					
ka	ki	ku	ke	ko	ga	gi	gu	ge	go
カ	キ	ク	ケ	コ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
sa	shi	su	se	so	za	ji	zu	ze	zo
サ	シ	ス	セ	ソ	ザ	ジ(ヂ)	ズ(ヅ)	ゼ	ゾ
ta	chi	tsu	te	to	da			de	do
タ	チ	ツ	テ	ト	ダ			デ	ド
na	ni	nu	ne	no					
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ					
ha	hi	fu	he	ho	ba	bi	bu	be	bo
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ma	mi	mu	me	mo	pa	pi	pu	pe	po
マ	ミ	ム	メ	モ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
ya		yu		yo					
ヤ		ユ		ヨ					
ra	ri	ru	re	ro					
ラ	リ	ル	レ	ロ					
wa									
ワ									

2. よう音(拗音)

kya キヤ	kyu キユ	-kyo キョ	gya ギヤ	gyu ギユ	gyo ギョ
sba シヤ	shu シュ	sho ショ	ja ジャ(ヂヤ)	ju ジュ(ヂユ)	jo ジョ(ヂョ)
cha チャ	chu チュ	cho チョ			
nya ニヤ	nyu ニユ	nyo ニョ			
hya ヒヤ	hyu ヒユ	hyo ヒョ	bya ビヤ	byu ビユ	byo ビョ
mya ミヤ	myu ミユ	myo ミョ	pya ピヤ	pyu ピユ	pyo ピョ
rya リヤ	ryu リュ	ryo リョ			

3. いわゆる長母音はその文字の上に「ー」または「へ」をつけてあらわすか、または母音字を重ねてあらわす。ただし「ていねい」「命令」などの「エイ」は ei とする。

obāsan	おばあさん	nēsan	ねえさん
ryori	料理	kūki	空気
chiisai	小さい	teinei	ていねい

4. はねる音は n であらわす。ただし, m, b, p の前では m を用いる。

sannin	三人	kantoku	監督
temmongaku	天文学	shimbun	新聞
dempō	電報		

[注意] はねる音をあらわす n の次にすぐ母音字又は y が続く場合には, n のあとにきるしるし「'」を入れる。

gen'in	原因	kin'yōbi	金曜日
--------	----	----------	-----

5. つまる音は, 次に來る子音字を重ねてあらわす。ただし, sh および ts の前では, sh, ts を重ねずに s, t のみを重ねてあらわす。また, 次に ch が続く場合には c を重ねずに t を用いる。

Nippon	日本	gakkō	学校
issō	一層	zasshi	雑誌
ossharu	おっしゃる	kitte	切手
yotstu	四つ	matchi	マッチ

また, 次のような場合には, アポストロフ「'」を使って示す。

"A'" to sakebu. 「あつ」とさけぶ,

日本式のつづり方, その他

1. 直音

a	i	u	e	o
ア	イ(ヰ)	ウ	エ(ヱ)	オ

ka	ki	ku	ke	ko	ga	gi	gu	ge	go
カ	キ	ク	ケ	コ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
sa	si	su	se	so	za	zi	zu	ze	zo
サ	シ	ス	セ	ソ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ta	ti	tu	te	to	da	di	du	de	do
タ	チ	ツ	テ	ト	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
na	ni	nu	ne	no					
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ					
ha	hi	hu	he	ho	ba	bi	bu	be	bo
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ma	mi	mu	me	mo	pa	pi	pu	pe	po
マ	ミ	ム	メ	モ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
ya		yu		yo					
ヤ		ユ		ヨ					
ra	ri	ru	re	ro					
ラ	リ	ル	レ	ロ					
wa				wo (助詞の 場合だけ)					
ワ				ワ					

2. よろ音 (拗音)

kya	kyu	kyo	kwa	gya	gyu	gyo	gwa
キャ	キュ	キョ	クワ	ギャ	ギユ	ギョ	グワ
sya	syu	syo		zya	zyu	zyo	
シャ	シュ	ショ		ジャ	ジュ	ジョ	
tya	tyu	tyo		dya	dyu	dyo	
チャ	チュ	チョ		チャ	チュ	チョ	

nya	nyu	nyo			
ニャ	ニユ	ニョ			
hya	hyu	hyo	bya	byu	byo
ヒャ	ヒユ	ヒョ	ビャ	ビユ	ビョ
mya	myu	myo	pya	pyu	pyo
ミャ	ミユ	ミョ	ピャ	ピユ	ピョ
rya	ryu	ryo			
リャ	リュ	リョ			

- ③. いわゆる長母音はその文字の上に「ハ」をつけてあらわすか、または母音字を重ねてあらわす。ただし「ていねい」「命令」などの「エイ」は ei とする。

Obâsan	おばあさん	Nêsan	ねえさん
Tôkyô	東京	Kâki	空気
Tyûi	注意	ôkii, ookii	大きい
tiisai	小さい	Meirei	命令

4. はねる音は、すべて n であらわす。

Kantoku	監督	Sinbun	新聞
Denpô	電報		

[注意] はねる音をあらわす n の次にすぐ母音字又は y が続く場合には、n のあとに切るしるし「'」を入れる。

Gen'in	原因	Kin'yôbi	金曜日
--------	----	----------	-----

5. つまる音は、次に來る子音字を重ねてあらわす。

Nippon	日 本	Gakkô	学 校
Kitte	切 手	Zassi	雜 誌
ossyaru	おっしゃる	Syuppatu	出 発
tyotto	ちょっと		

ただし次のような場合にはアポストロフ「'」を使って示す。

“A” to sakebu. 「あっ」とさげぶ。

6. 文の最初の單語、固有名詞および普通名詞、その他必要のある場合には、その語頭に大文字を用いる。

Kyô wa Kin'yôbi desu. きょうは金曜日です。

Tôkyô 東 京 Kodomo こども

〔注意〕 元來は普通名詞であっても、他の役めをしているものには、その語頭に大文字を用いない。

Benkyô suru koto ga taisei da.

勉強することがたいせつだ。

附 録

國民学校におけるローマ字教育実施要項

— 昭 22. 2. 28 次官逡達 —

昭和 22 年度から、國民学校において、事情のゆるすかぎり、兒童にローマ字による國語の読み方・書き方を授けることとする。

昭和 22 年度に各國民学校において、ローマ字教育を行うには、次の各項による。

1. 各國民学校において、ローマ字教育を行うかどうかは、その学校の教育上の責任者が、その学校の事情を考慮してこれを決定する。ローマ字教育を行う場合には原則として第 4 学年以上の各学年に行う。ただし、さらに下学年からローマ字教育を行い得るような学校では第 3 学年から行うことができる。
2. 授業時数は、1 年を通じて 40 時間以上とし、國語あるいは自由研究の時間のうちで行う。
3. 教授の方針、方法、その他については文部省でローマ字教育の指針を編修し、配布することとする。
4. 教科書は文部省編修のものを使用することを原則とする。
5. 國民学校において授けるローマ字文の書き方は別冊「ローマ字文の書き方」による。
6. ローマ字教育に関する教師の訓練については、本年度から適當の処置を講ずることとする。

(備 考)

- (1) この要項における國民学校とは、來年度から新学制が実施される場合には、小学校および新制中学校をさすものである。
- (2) 昭和 23 年度からの実施案については、昭和 22 年度における実施の成果を基礎とし、さらに研究の上、決定する。

〔注〕 備考の (2) に関しては、この冊子のはしがきにも述べたように、目下、ローマ字調査会で研究・審議中であり、その結論が得られるまでは、この実施要項に準じてローマ字教育が行われている。